

新春対談

平成27年、荒川区は「俳句のまち」を宣言します

3月14日(土)、奥の細道矢立初めの地である荒川区で、初めて「奥の細道サミット」が開催されます。27回目を迎えるこのサミットは、奥の細道ゆかりの38の自治体等で構成され、関係団体が一堂に会し、芭蕉翁の業績を顕彰し、相互の連携・交流を図ることを目的として開催されています。

奥の細道サミットの開催に合わせ、荒川区は「俳句のまち」を宣言します。27年新春対談では、現代俳句の第一人者である金子兜太先生と西川区長が、荒川区が俳句ゆかりのまちとなった歴史的な背景や俳句の魅力などについて語り合いました。区は、今後も俳句文化を区内外に強く発信し、俳句文化の振興と俳句による地域振興、観光振興を図っていきます。

小林一茶の句碑

陽炎や道灌どのの物見塚
場所 本行寺(西日暮里3-1-3) 建立 昭和61年(1986年)11月15日 長久山三十四世加茂日蓮他3人 出典 「七番日記」「二茶七番日記」上 岩波文庫、2003年



はまざにぞうしたおもてなしの出来るい町を思っています。
金子 日暮里に「茶など多くの文人が集まった理由には一瓢の人徳があるでしょうね。それに、一茶のパトロンでもある夏目漱石が随分この句会を主催して、大勢の文人墨客が来りました。

俳句は短い世界に冠たる詩型

金子 俳句は五七調の、世界で一番短い詩だというのが一番重要で、だから今、俳句を世界の無形文化遺産にしようという動きがあるんです。俳句は世界に冠たる詩型です。
区長 たった17文字で森羅万象を読み込んでもいい。
金子 しかも、俳句にはいろいろな含蓄があります。
区長 句を作るのも苦労するでしょうけど、鑑賞するのもセンスがないと駄目なんです。

荒川区と大垣市を結ぶ子ども俳句相撲大会

区長 奥の細道の矢立初めの地・荒川区と、結の地・岐阜県大垣市とが交流都市になっており、大垣市が「子ども俳句相撲」を教えた下で、土俵には行司がいて、呼び出しを行うと東西から小学生が2人組で上り、子どもたちは自分たちが作った作品を見合せて、二つの句を競い合います。大垣市はとも俳句に熱心な町で、その市長さんが指導して下さいました。それが今日の荒川区の子どもの俳句好きや全ての小学校で俳句を詠むという習慣になったと感謝しています。だから、遠くは芭蕉翁のおかげです、本当に。
金子 五七調というのが非常に大事な詩の形式ですから、子どもたちにこの形式の良さを分かってもらいたいです。

俳句を作る上でのアドバイス

金子 大人が俳句を作る時でも五七五を基準に口ずさんでいると出来てくる、という解釈でいいんじゃないかな。だから、おのずからよく出来た句っていうのは五七五に収まっています。その辺の感触を良く、無理に五七五になさなきゃいいかな、とか、そういうふうに考えるのが駄目ですね。思うままに作る、だから、五七五で一応、頭の中で整理しながら、とにかくリズム、リズムを整えていく、と、このように思います。
区長 「季語が無きゃならぬ」と言う

「奥の細道」矢立初めの地 千住

区長 芭蕉が荒川区から出発した、というのを決定的にして頂いたのが金子兜太先生です。「芭蕉は、間違いない『行く春や』の句を詠んで千住橋を渡って行った」と。それで、「芭蕉が渡ったという文脈が何か証拠になるようなもの、どこにありますか」とお尋ねしたら、先生はちょっとお考えになって、



「金子兜太が見たと言いなさ」とおっしゃった。ここが先生の愉快なところ、それ以来あちこちでこれを話していますが、みんな納得してくれています。先生は荒川区を「俳句のまち」と名乗る根拠を下さった大恩人です。
金子 芭蕉は、いよいよ長途の旅に出るということで感傷的もなっていたでしょう。それで、「行く春」と言って4月。これは旧暦ですから現在の5月です。だから、青葉の奥の細道を歩き出す、ということ。ただ花がはいって咲いている、というセンチメンタルな感じになって、青葉が繁り始めているのを歩いて行く、という意気込みがあります。千住は奥の細道へ出る地ですから、千住を選んだのは当時の千住で

「俳句のまち」宣言で俳句文化を世界に発信

区長 荒川区に歴代、連綿として続いてきた、小林一茶や一瓢上人、松尾芭蕉、西山宗因、夏目漱石、正岡子規などのいろいろな語につなげていくわけですね。だから、私は堂々と日本中に、荒川区は俳句ゆかりのまちと名乗って、遜色のない文化の里だと申し上げたいと思います。高浜虚子は、そう言っています。私は、季語も大事ですが、無くてもいいと考えています。それ以上に季語に勝る詩の言葉「詩語」があればいい。詩語は、五七五によって自分が作り出した言葉です。作り出したという意味にはいるるあって、既に使われていた言葉でも五七五に当てはめたら素晴らしい響きが良、初めてその良さが分かることもありますね。詩語を生む力が五七五にはあると思っています。実際に俳句を作った時にいい詩語を自分でも発見する場合がありますから。

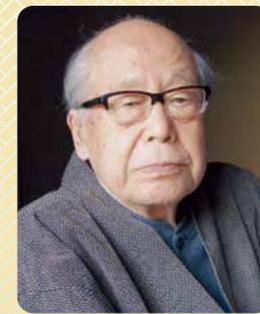
区長 私は、夏目漱石の俳句が大好きです。漱石は文豪ですが漢詩も詠む。ちゃんと韻を踏んで、漢詩をたくさん作っています。俳句集も同じく、そのポリュームで、熊本の旧制第五高等学校に英語の先生で赴任された五高(現在の熊本大学)の図書館の前に「秋はふみ音に天下の志の句碑が建てられています。これは漢詩をよく勉強した人でなければ出てこない語感です。おそ



荒川区には、俳句の普及を進めていく責務がある。

俳人 金子兜太さん

しょう。だから、荒川千住ってのはいいんです。橋を渡って行ったというのはいかに芭蕉らしい。
区長 私は「おくのほそ道」を何回も読みました。一番好きな句は、スケールの大きい「荒海や佐渡よよこた天河です。奥の細道の行程に、黒羽藩(現在の栃木県大田原市)があります。黒羽藩と言うと、江戸後期の藩主である大関増業という学者肌のお殿様が有名ですが、黒羽藩の下屋敷が、黒大関閣下(のり)にありまして、今は第六瑞光小学校に当たっているんですが、そこを芭蕉が訪ねていたと言説もありません。当時新幹線も自動車も無い、いってどこで生き倒れになるかわからない命懸けの旅。だからその出立の時に縁故の方々とお別れしない訳がない。そういうことを踏まえて千住大橋を渡って行かれた、荒川区から旅立ったと解釈するのが自然だと思います。
金子 その解釈、非常にいいと思います。やはり芭蕉はそれだけの詩的な思いがあったということ。橋も渡らずにすぐに奥州への道へ入っていくという味気な、これに比べて、千住大橋をゆっくりに渡って、旅情を味わいながら行く出立の仕方は、芭蕉の詩心を良く示しています。それから、あの時代の人々が長い旅に出る時の思い、それを「鳥啼魚の目は泪」とまで言わしめる思いが分かりますね。



俳人・金子兜太さん

埼玉県小川町出身。1919年(大正8年)生まれ、95歳。現代俳句協会名誉会長、朝日俳壇選者を務める。日本芸術院会員、文化功労者、菊池寛賞等、受賞多数。俳誌「海程」主宰。句集は、「少年」「遊牧集」「両神」「東国抄」「日常」等多数。「あらかわ俳句のまち宣言起草委員会」委員や「矢立初めの地あらかわフォト俳句コンテスト」選者等、荒川区に多大な貢献と俳句文化の発展にご尽力している。

松尾芭蕉の句碑 行はるや鳥啼魚の目ハなみた

場所 素盞雄神社(南千住6-60-1) 建立 文政3年(1820年)10月12日 山崎鶴陽(鳥居勝斎書、建部美兆画) 出典 「おくのほそ道」(岩波文庫、1979年)



「荒川千住芭蕉主従に花の春」(写真中央)は、区長のおっしゃる「まち」になるんじゃないかと思っております。私は自分の直感でいうのを信用しているんですけどね。やはり芭蕉旅立ちの地っていうのは他に無いわけだから、「笈の小文」等の小さな旅はしていますけど、「おくのほそ道」という具体的な成果を示している長途の旅は無いわけ。だからこそ、「旅立ちの地」という意味は大きいです。しかも、くどいようですが、橋を渡って行きたい芭蕉の念の入力は、芭蕉の並々ならぬ気持ちを感じているわけ。こんな芭蕉が力を入れて出発したということも無いわけだから、他にも文人墨客がここの関わりしているわけでしょう。これを大事にして、文化の山みたいなのを作りたいと思います。

区長 金子兜太先生は95歳。ご長寿でいらしゃいます。ご長寿を表す言葉に「老松」という言葉がある。そこで、「老松の強さに学べ若い人」と作りました。子どもたちに、ぜひ先生を真似て生きてほしい。金子兜太先生の95年の人生は、しっかりと根を張って、ちょっとやそっとじゃ倒れない、太く強い老いの松だと思えます。これを荒川区の感懐世代に、ご縁が出来た先生に感謝しながら、見習って欲しいと思います。

荒川区は、区民の皆さまのお力で、ますます発展しています。27年もなお一層区民サービスを徹底して、皆さまに喜んで安心して住んで頂けるまちを作ります。荒川区を応援して頂きますよう、本年もよろしくお申し込み申し上げます。

結心の句と区民の皆さまへのメッセージ

金子 私、たった今詠んだ句

奥の細道千住あらかわサミット

～いま発たん 矢立初めの地あらかわ～

3月14日(土)の「奥の細道千住あらかわサミット」では、次のようなさまざまな記念イベントが開催されます。

- ▶有馬朗人氏の記念講演 (有馬氏は、物理学者で俳人でもあり、東京大学総長・文部大臣・科学技術庁長官などを歴任された、武蔵学園学園長・国際俳句交流協会会長です)
- ▶荒川区俳句のまち宣言
- ▶奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会
- ▶フォト俳句コンテスト表彰式
- ▶荒川ふるさと文化館企画展「奥の細道・旅立ち展」(2月21日(土)～3月22日(日))

また、サミット開催を記念して、南千住駅西口駅前に芭蕉像を建立すべく、現在準備を進めています。
*記念イベントは、詳細が決まり次第区報等でお知らせします
問合せ 観光振興課 ☎内線461
*荒川区俳句のまち宣言については、文化交流推進課(☎内線2521)へ

